

生粋の広州人が暮らす街

林薫 [写真]
text & photo: Higashi Kozumi

西関慕情

「生粋の広東語を聞きたいなら、西関グワンにお行きよ」と、ある広東人から言われた。

西関は、現在の荔湾区のあたりを指す。かつて広州古城の西門の城外にあったことから今でもそう呼ばれている。清代には、中国との貿易を許された外国商社の十三行が、十三行路から杉木欄路のあたりに軒を連ね、すぐ南の珠江に浮かぶ小島、沙面は英仏租界になっていた。当時はここが広州、さらには華南の中心だった。

上九路、下九路、第十甫路は実際には一筋の通りで、にぎやかな商店街になっており、騎楼ケイラウと呼ばれる建物が並んでいる。騎楼の2階より上は通りにせり出し、その下がアーケードになっている。雨の多い華南に多く見られる建物だ。広東料理の老舗、陶陶居、



竹筒式家屋の横格子のついた戸



美しい飾りがほどこされた満洲窗



下九路は若い女性向けの店が多く、夜までにぎわう



恩寧路の古い騎楼。外装は洋風、戸口は広東式の中洋折衷な造りが面白い



